

氷川町10年後のあるべき姿について(第1弾-その2)

江寄 悟 議員



議員 前回の一般質問の町長答弁の内容について、再度質問を致します。

藤本町長は、「私が小さな合併を望んでいた」と言われましたが、私は、宮原町単独で生き残るべきだと平岡町長に具申しました。宮原町は、人口密度が高く凝縮した町で、町制100周年を迎えられるほどの歴史ある町です。庁舎も学校も下水道・地籍調査などのインフラ整備も終わり、中心市街地整備に着手したばかりでした。

しかし、2町合併に舵が切られ、この10年間浜田町長と藤本町長で氷川町の舵取りをされてきました。

10年経過してみて、いま、「本当に住民の声が聞こえる小さな合併で良かった」と住民の皆様が思っておられるか、住民の皆様聞く必要があるのではないかと思います。

氷川町10年後のあるべき姿について(第1弾-その2)

その結果、今後10年氷川町のままで進んでいくか、八代市との合併も視野に入れるのかを判断すべきではないですか。

私は、住民の皆様のためには小さな合併を何とか成功させなければならぬと思います、議員として、この6年間、色々な提案をしてきました。土地利用計画を作って、農振地域の見直しや企業誘致エリアの位置づけ、インテークエンジヤバイパス周辺の整備、まちづくり条例の電北地区整備、トマト・イチゴの団地化、高校の誘致又は町立高校の設立、小中高一貫教育、高齢者タクシー券などです。残念ながら藤本町長の答弁は全て、「検討します。考えていません。」で終わりました。

また、中心市街地の整備に関しては、藤本町長の答弁は、「中心市街地の整備で、商店が無くなり

ましたよ、残念でございます、何のための整備だったか少し反省して、検証すべきじゃないですか。」

この発言は、宮原町の町長、議員、住民の皆様に対して非常に失礼だと思われました。

中心市街地再整備は、まだ1期目が終わったところで、2・3期と計画されていて、合併時の約束では、再整備の継続を行うことになっていましたが、藤本町長は、中止を決定された。

町長は、お店が無くなったと言われましたが、その当時の店舗を知っていますか。茶碗屋・喫茶店・スナック・電気屋などは閉まっていて、薬局・八百屋・自転車屋・蒲鉾屋・パーマ屋・ガソリンスタンドなどは、後継者が無かったり、法改正による閉店前などで、再整備が無かったらシャッター通りとなっていきます。

お店を継続したい方や後継者が頑張っておられ

た、お菓子屋・床屋・パーマ屋・写真屋・ちゃんぽん屋・焼肉屋などは、再整備の中で頑張っておられます。

町長は、このことを知っておられますか。

私は、この再整備を平岡町長が担当させてくれて良かったと今でも自負しています。宮原町がやったことは失敗じゃないのです。継続して約束どおり2・3期事業を実施すべきです。

さて、農業政策について、町長は、集落営農組織の推進で広域化・集団化が農業の生き残る道だと言われ、アグリ吉野・野津南農事組合法人が設立されました。

先日、県の農業コンクールに入賞された祝賀会があり、受賞された若者や若手農業者と話す機会があり、農業の広域化や集団化について意見を伺いました。

若手農業者は、「一人でやります。頑張った分収入があるから、個人農家として頑張ってきたか

らコンクールで秀賞が戴けた。」との意見でした。

町長は、集落営農組織と個人農家対策をどの様に考えておられるのでしょうか。

町長 産業の10年後については、目新しいことをすることが、10年後の産業を作ることではないと思います。やるべきことをしっかりとこれから継続していく、変えるべきことは変えていきたい。個人経営から集落営農に替えるのも必要だし、個人経営も支援して参ります。

商工業について、旧町時代の政策を愚弄するつもりはありません。今後の政策について真摯に議論を続けたいと思っております。



そこが聞きたい

一般質問 3 議員立つ

江寄 悟 議員

氷川町 10 年後のあるべき姿について (第 1 弾 - その 2)



片山裕治 議員

有佐駅前から国道3号線までの鏡宮原線の拡幅及び歩道設置について
公務員住宅の建設について



河口涼一 議員

八火図書館の利用状況について



※質問と答弁の記事は、質問議員の責任でまとめたものを広報委員会でチェックして掲載しています。写真、見出し、答弁者の役職名は広報委員会で行いました。